



## 絶縁措置してあるから安全!? その認識が問題だ!

12月5日付  
東京新聞

### 電車と接触のシカ死骸撤去

## JR東、乗客に手伝わせる

あきる野市のJR五日市線武蔵五日市―武蔵増戸間で十月、電車とシカが接触した際、乗客に死骸の撤去作業への協力を依頼し、手伝わせていたことが四日、JR東日本への取材で分かった。野生動物に触れることによる衛生上の問題が出た可能性があるが、**同社は安全は確保されており、適切な判断だったと**し「今後は極力お客さまに要請することにならないよう努めたい」としている。

パンタグラフを架線から下ろさないまま線路上で作業したが、**機器類には絶縁措置がされており、感電の恐れはなかった**という。

JR東によると、十月十八日午後六時五十分ごろ、武蔵五日市発立川行き普通電車が走行中、線路内に進入したシカと接触し、停車した。

乗務員が車両の下に挟まった

シカの撤去作業に当たったが手間取った。電車内のJR関係者を探したが見つからず、乗客に協力を求め、五人が手伝った。ゴム製の作業用手袋を渡しただけで、マスクや作業着などは着用していなかったという。

環境省によると、野生動物は細菌など病原体を持つ恐れがあるため、接する際は長袖や長ズボン、手袋の着用で血液に触れないことが必要だ。山口大共同獣医学部の高野愛准教授（獣医学）は、血液に触れたり、体表にいるマダニに刺されたりして、ウイルス性の疾病になる可能性があると指摘し「感染症のリスクを避けるため、殺虫剤をかけるなどして作業する必要がある。発熱や倦怠感があったら、すぐに病院に行ってほしい」と話している。

電車は現場に約一時間五十分停車し、午後八時三十五分ごろ運転を再開。運休や遅れで約五千人に影響した。

あきる野の五日市線で10月

私たちが問題視しているのは根本原因を覆い隠して  
乗務員・旅客に責任を押し付ける会社の姿勢だ!!  
安全確保を最優先に判断・行動しよう!